

団体名	東京湾再生官民連携フォーラム
所在地	東京都港区虎ノ門3-1-10第2虎の門電気ビルディング4階(一財)みなと総合研究財団内
団体の目的	東京湾の再生
活動地域	東京湾周辺
地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿	東京湾周辺の生活者、企業等が湾に親しみ・その恵みに感謝し、環境再生に取り組む姿
地域の現状・課題	海が持つ課題;東京湾は、赤潮、青潮、貧酸素水塊の発生、海洋汚染(プラスチック)、環境・自然資源の保全(生き物を育む干潟や地形、森林、河川と言った環境循環)湾岸周辺エリアの産業経済活動、都市開発と東京湾の環境保全、首都圏の湾機能が持つ多様性と環境負荷の低減(ブルーカーボン) 東京湾の恵みの享受と生活者が持つ東京湾への意識ギャップ。
地域が持つ資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ &lt;東京湾の自然資源&gt;湾・海、生き物、干潟、河川、江戸前ブランドなど</li> <li>・ &lt;産業経済資源&gt;港施設等の機能、横浜港・川崎港・東京港など日本の物流産業の拠点。また、ごみ処理場、工場の機能など</li> <li>・ &lt;観光資源&gt;東京湾の自然、フェリー定期ルート、海上公園など。アクアライン・海ほたる。お台場、横浜みなとみらい地区など</li> </ul>
取組内容	東京湾の環境再生に意欲を持つ多様な人々が有する英知を結集し、連携や協働を行い、広く東京湾をPRする活動の実施。それらの活動を通して生み出される東京湾再生に向けた総意をとりまとめ、「東京湾再生推進会議」へ政策提案を実施する等の活動を行っています。現在9つのプロジェクトチーム(フォーラム活動案内参照)が東京湾をテーマに活動を行っています。例えば、生き物生息場を再生する取組、東京湾再生への関心を喚起・啓発する「東京湾大感謝祭」などを実施
地域循環共生圏を実践することで想定される効果	<p>(環境)東京湾への活動が全国に広まる影響と効果の発生。東京湾の取組が大阪湾、広島湾、有明海などの環境再生事例の先行モデルとなる。</p> <p>(経済)企業とNPOによる連携事業の創出。自然、水産資源、観光資源、ブルーカーボン、プラスチック対策活動等による低炭素社会の形成・寄与。</p> <p>(社会)常にある自然資源を大切とする意識変化、これに伴う都民、市民(湾岸周辺に約3千万人)行動変容、パートナー創出効果</p>



設立総会の様子



企画運営委員会の様子



東京湾大感謝祭



感謝祭の様子